

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡山市立曾根小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒 701-0214
岡山県岡山市南区曾根 139-2
E-mail sones@city-okayama.ed.jp
Website _____
幼児児童生徒数 男子 83 名 女子 70 名 合計 153 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、「つなぐれ曾根っ子 ～地域のために進んで貢献する子ども～」をテーマとして、ESD を全ての教育活動の根幹と捉え、ESD の実践を通して社会のなかで自分にできることを考え、さまざまな人と一しょに持続可能な住みよい社会をつくろうとする子どもの育成を目標とした。

具体的には、よりよい郷土の創造、福祉、環境保全、国際理解の学習を柱に、①地域とつながるプロジェクト、②環境を守るプロジェクト、③さまざまな人とつながり、生き方を学ぶプロジェクトに係わる学習を行った。

＜地域とつながるプロジェクト＞

- 1 年「昔の遊びをしよう」生活科 1 月
 - ・ 体育館
 - ・ 1 年生（32 名） 祖父母・保護者（40 名）
 - ・ こま、あやとり、おはじき、だるまおとし、けん玉、お手玉など
- 2 年「野菜を育てよう」生活科 10 月～12 月
 - ・ 学級園他
 - ・ 2 年生（22 名） 地域の方（1 名）
 - ・ 大根を育てて収穫し、お世話になった地域の方を招いて大根パーティーを行った。



○3年「曾根のお宝発見！」総合 4月～3月

- ・地域の方の田んぼや農機具倉庫他
- ・3年生（23名） 地域の方（2名）
- ・曾根の農業や祭りについて、地域の方の話を聞いたり、稲刈りの体験をさせてもらったりして、「曾根のお宝」という観点でまとめ、「曾根のお宝」とは何か考えた。



○5年「だれもが暮らしやすい曾根にしよう（防災）」総合 4月～3月

- ・各教室他
- ・5年生（22名）社会福祉協議会（1名）と視覚障害の方（1名）東京海上日動の方（3名）
- ・ユニバーサルデザインについて話し合うことをきっかけに、だれもが暮らしやすい曾根にしようという思いをもち、ユニバーサルデザインについて調べ、障害のある方たちの生活について考えた。また、東京海上日動の方による話をきっかけに防災に関心をもち、被災後の避難所での生活や防災の心がまえなどについて調べ、考えた。
 - ・福祉体験教室（アイマスク体験、盲導犬の話）
 - ・保育園児との交流
 - ・災害時におけるパック調理実習



（パック調理実習）



（福祉体験教室）

○3, 5年「災害から命を守る（起震車体験）」特別活動 12月

- ・各教室 校庭
- ・3学年（23名）5学年（22名）岡山市消防署の方（3名）
- ・南消防署の方にきていただき、起震車体験を行い、地震発生時にどんな行動をすれば・熊本地震をきっかけに、地震の被害にあった人々（お年寄り・幼児・体の不自由な人など）の暮らしや防災を取り巻く社会問題や防災に関わる人々の生き方などを調べた。
- ・福祉体験教室に参加した。
- ・曾根学区民防災訓練（土曜参観日）に参加し、防災について調べたことをワークショップ形式で発表した。
- ・保育園児と交流した。

○3, 5年「災害から命を守る（起震車体験）」 特別活動 12月

- ・各教室 校庭
- ・3学年（28名）5学年（26名）岡山市消防署の方（3名）
- ・南消防署の方にきていただき、起震車体験を行い、地震発生時にどんな行動をすればよいか考えた。



<環境を守るプロジェクト>

○4年「ごみを減らし、大切な地球を守ろう」総合 4月～3月

- ・4年教室 他
- ・4年（28名）明和製紙の方（1名）環境学習センター「アスエコ」の方（3名）
- ・ごみを減らす活動や資源を大切にすることを学ぶ活動の調べ学習や外部専門家の話から考えた自分のできる環境保全の実践活動に取り組んだ。（古紙・牛乳パック集め、アクリルたわし作り、節電チェックカード作り、アルミ缶・スチール缶・ペットボトルのリサイクルのよびかけ）



（環境学習センター「アスエコ」）

<さまざまな人とつながり、生き方を学ぶプロジェクト>

○6年 「世界の子どもたちに自分のできることをしよう

～知ろう,実践しよう,広げよう～」

- ・6年教室他
- ・6年（26名）
- ・世界の子どもたちの諸問題について調べ、自分の生活と比べて考えた。また、カンボジアの支援を行っているNPO団体への協力と、自分にできる支援活動（募金、鉛筆の寄付、手作りの手提げ袋の寄付など）を行った。
- ・調べ活動を通して、それぞれの国の特徴を尊重しながら相手のことを考えて実践することの大切さや、支え合っていくことの必要性にもとづいて、実践の仕方考えた。

（2）活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	□ 2. エネルギー	■ 3. 防災	□ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	■ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
■ 9. 健康・福祉	□ 10. 食育	□ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	□ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□ 16. ジェンダー平等	■ 17. その他(地域 米作り やさい作り)		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他()	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は児童数 153 名の小規模な学校である。子どもたちは、6 年間クラス替えがないため、お互いのことをよく知っており、自己表現しなくても友達から理解される環境にある。そのため、多様な考え方に触れる機会が少ない。そこで、持続可能な社会づくりの問題解決に向けて、他者と協働して問題を解決しようとする学習活動や、気づいたことをまとめたり、表現したりする活動を進め、自己の生き方を考えていくための資質・能力やコミュニケーション能力、多様な他者への理解を育む必要性があると考えている。そこで、地域で暮らす人々の思いに触れ、大切に学習を各学年の総合的な学習の時間を中心に、行っている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

年度当初の会議で ESD について説明することで、全職員に周知する。また、各学年の年間指導計画に ESD に関する活動を位置づけることで、継続的に活動に取り組める環境をつくっている。年間を通して行った ESD の活動に関わった外部人材や団体について一覧表にまとめ、次年度からの参考にしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本年度行った学校評価アンケートの結果から、「学校では、学校内外の人材の活用を進めているが、そのことで子どもの総合的な学力は伸びてきていると感じる。」に肯定的な回答をした保護者は 50.0%であった。この結果から、実際に学校で行っている活動が保護者に十分に伝わっていないことが分かった。学校での取組を、保護者に向けて発信し、ESD についての取組を共有することが今後の課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

昨年度までの実践を踏まえ、各学年で特色ある活動に取り組むことができた。外部人材との交流を根付かせることができ、児童の学習の手助けとなった。1～5年生は、参観日を活用して ESD の実践について保護者に発信することができた。また、4・6年生は保護者に活動の協力を手紙でよびかけることができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

2年生では地域の方(野菜作り)、3年生では地域の方(米作り)4年生では明和製紙(環境保全)、環境センター「アスエコ」(環境保全)、5年生では社会福祉協議会(福祉体験)、東京海上日動(防災)、岡山南消防署(起震車体験)、6年生ではNPO団体(国際理解)との交流を行った。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

6年生は、世界の子どもたちの諸問題について調べ、自分の生活と比べて考える学習を行った。カンボジアの支援を行っているNPO団体への協力として、自分にできる支援活動(募金活動、学用品や生活用品を集めて贈る活動など)を行った。調べ活動や実践活動を通して、それぞれの国の特徴を尊重しながら相手のことを考えて実践することの大切さや、支え合っていくことの必要性について考えることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

各学年の年間指導計画に ESD に関する活動を位置づけることで、継続的に活動に取り組める環境をつくることができた。昨年度から ESD の活動に関わった外部人材や団体との交流を引き続き行い、根付かせることができた。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度行った環境, 防災, 国際理解, 地域の伝統文化・福祉など地域の分野を各学年で行い, さらに深い学びになるようにしたい。そのために, 子ども自らが課題意識をもつことができるような導入の工夫をしていきたい。今年度課題がのこった, ESD の実践について保護者や地域に発信すること（参観日での発表, 保護者へのお便り）に重点をおいて, 取り組みたい。